

過去に於ける労働教育運動が共通に際入った過失は、理論と行動との密及である。その結果「理論」としては正しく、実行は不可能である」との過失される意志が、単に保守的守動的な組合幹部のみならず勇敢なる青年闘士の中にも多く承認されて来た。

然も方向転換の叫びが挙げられて以来、特にこの傾向が甚だしい。以ては日知見主義的階上階の途があり、方向転換に対する危険性を充分に認めず、現実を即したる運動をなさず、水はならぬ砂以も茲にあるのである。

故に我々等が労働教育に対する方針を確立するに當り、先づ自らの斯る過失を矯正し、この過つたる日知見と闘つて行き、理論と行動の統合せる教育に努めなければならぬ。斯くの如き見解よりして、吾が日本労働組合評議会の

教育方針を確し、理論と行動の一致に努め、以て大衆を教育して、(注) 進歩的階級意識の水準に引き上げ、水はならぬと共、組合を労働階級の一致の機關に結らしめること、不断の教育と活動を通じて組合員の定着を計り、眞實な労働階級の組織をらしめることは努めなければならぬ。

従つてこれに対する沈初は、組合の教育幹部が主動的な立場に立つて活動し、水はならぬ。然るに従来各組合の教育部の活動は殆んど何等の聯絡もなく統一もなかつた結果各組合教育幹部の沈初は不十分であった。これ明らか二分働教育に対する方針が樹立され、各組合の結果は外ならず、これ亦我々等が日本労働組合評議会の